2021年（令和3年）1月1日
くげぬま探求クラブ

会報 くぐひ

第104号（正月号）

◇　くぐひ（鵠）は白鳥の古い呼び名。鵠沼には昔たくさんの白鳥が飛来したことによる　◇

アフターコロナ？、2021年のくげぬま探求クラブ

世話人副代表　池田 修

日本や欧米では1月から新年が始まります。でも、中国、韓国やベトナムなどアジア各国はまちまちで、中国の旧正月一斉休暇は有名、かつてのベトナム戦争時のテト（旧正月）攻勢なる言葉は今も私の耳に残っています。いずれも新しき年を寿いで、こころ新たに生活をリセットする人間の知恵で、区切りがなくては生活がのっぺらぼうになってしまい、どうも都合が悪いからでしょう。

去年はとんだ年でした。新型コロナのテト攻勢ならぬ2月攻勢を受けた日本人の私たちはまるで訳が分からず、お上の云うまま、あれして、これして、アレせず、コレせずで、3月以降、くげぬま探求クラブは恒例の花見会を見送り、4月、5月、6月と月例会をすっ飛ばしながら、ようやく7月からホールを使っての再開に漕ぎつけました。

この間、鵠沼公民館の部屋は完全にクローズ、公民館を活動の拠点としている私たちはまるで手足をもがれたようなもので、各部会そろって全く活動が出来ませんでした。8、9 月も同様、夏のお楽しみ、納涼会も中止になりました。そんな中、もっぱら屋外活動の農園部会と鵠沼松が岡公園愛護会、藤が谷公園愛護会の3部会だけが気を吐き、ビビッドに活動を続けました。公園整備作業を終えて、車座になって“清涼飲料”と駄菓子をつまんでの緑陰での談笑は、まずもってくげぬま探求クラブ憲章にある『私たちは地域の人たちと風景を愛します』そのものでした。

10 月からは公民館の部屋使用のルールが緩和され、制約の中ぼちぼち各部会の活動が再開できる運びとなりました。しかし、11月から師走にかけて第3波ともいわれる感染者急増に見舞われ、右往左往しながらやっと新年を迎えました。

どうも気になるのがクラブの高齢化現象です。ひとりひとりが毎年1歳ずつ歳を重ねることを続けているんですからこうなるのはやむを得ません。3年前に280くらいだった鵠沼公民館登録のサークルは、2018年度に18サークル、19年度に20サークル、20年度は途中までに11サークルが高齢化を主な理由に解散しています。我がクラブもこの例のように流れて行くか、少しでも新しい年代の人を誘い組織を活性化していくか。とはいっても、実際は容易ではないでしょう。

新しき年、2021（令和3）年はどうなるのでしょうか。もう今後の生活はWithコロナが前提と云われていますので、私たちは忌まわしき新型コロナと永久に同棲しなければなりません。ただ、ワクチンや特効薬の登場…などで状況は大きく変わるわけで問題は、いつから毎年のインフルエンザ並みになって落ち着き、アフターコロナになるかどうかにかかっています。

当クラブの存在や活動は程度の違いはあっても、私たちの終の棲家・鵠沼での生活の一部になっています。1年近い完全な空白を強いられて、ひとりひとりの生活の内容に変化が生じました。本人がどう気が付いているのかは分かりませんが、今年から個々の活動に変化が表れてくるのではと、私は想像しています。

さて、2023年4月に当クラブは30周年になります。4月からの新世話人の2年の任期満了と同時にバースデーを迎えます。周年行事をどうするかについては皆さんの考えは色々だと思われますが、何らかの30年メモリアルが必要なのは自明で、今年から来年は準備期間になるでしょう。

ゆえあって新年号巻頭執筆の栄に浴した私ですが、とんだ籔ニラミになってしまいました。僭越ながら2021年のみなさんの健勝とくげぬま探求クラブの元気な活動をこころより願っています。

【特集】新型コロナ自粛の過ごし方

コロナ禍で得たこと

奥村 誠

私は長年、小学校のクラス会と大学時代の悪友の集まりの永久幹事をしてきました。

何れの会も他界してしまった者、連絡が出来なくなった者等で 10 人以下の少人数になってしまったのですが、半年に一度位は集まって、近況報告や昔話をしたりして楽しんでいました。しかしコロナの為にそれが出来なくなりました。

そこで、大学時代の仲間は飲むのが好きな人間の集まりなので、探求クラブでもお馴染みになった Zoom を使ったオンライ飲み会を毎月開催しています。最初は参加できる者が少なかったのですが徐々に参加者が増えていきました。気がついてみると歳相応に、健康上あまり飲めなくなった者や足腰が弱くなり外出が不自由になった者もおり、従来のリアルな飲み会であれば欠席となった者がいました。また従来のリアルの集まりでは住居が首都圏に分散している為、頻繁に集まることも出来ませんでした。

一方、小学校のクラス会の方は殆どの者がスマホに買い替えた事に気が付き、LINE の「くげ探広場」の様なグループを作り日常の出来事などを報告する様に呼びかけました。従来からメールを使用して、たまには連絡を取り合っていましたが、手軽に使える点が良かったのか頻繁にトーク（メッセージ）が飛び交っています。数日前には１人から脊柱菅狭窄症の手術の為に入院したとのトークが入ると、病床からの手術前後の状況報告、それに対するお見舞い、手術成功に対する祝福、励ましのコメント等々が飛び交い、まるで側にいる家族の様だと感じました。

以上の様に Zoom や LINE と云う新時代のコミュニケーション・ツールの助けで、直接顔を合わせることが出来なくなっても、頻繁に会話が出来るようになり、これまで以上に仲間達の強い絆が得られたと感じています。そして、このスタイルはコロナが無かったら生まれなかった「新しい日常」として定着するのではないかと思っています。

新型コロナこぼれ話

谷村 彪

「新型コロナ自粛生活」についての原稿依頼を頂いた。特記すべき話は無い。が、折角のご依頼であるので断片的ではあるが、発生以来の生活の一端を拾ってみたいと思う。

2020 年 1 月初旬、中国武漢で感染拡大した新コロナの影響で日本人を含む多くの外国人が出国を余儀なくされた。当初、私は“対岸の火事”的な見方をしていたのだが、2 月に入り、当時ダイヤモンドプリンセス号に乗船していた知人と携帯で数度話す機会があり、新型コロナが現実味を帯びてきた（知人は 2 月 19 日に陰性が確認され無事下船)）。

3 月 11 日には WHO が“パンデミック状態”と認定し世界中の感染拡大が懸念されはじめた。日本でも首都圏を中心に感染が増えはじめ、政府はイベント自粛等の要請をしたが、感染は止まるところを知らず、4 月 7 日には 7 都道府県に「緊急事態宣言」を発動するに至り、その後全国に広がっていった。具体的な指示内容は、皆さんご承知の通り。然らば、各々はどういう行動をとればよいのか・・・・。ここで“自粛”という指示事項が大きくクローズアップされる。具体的には「密閉、密着、密接を避けよ」という事で、不要不急な外出は避けろというのだ。

しかし私の場合、血圧（月 1 回)、腰部椎間板狭窄症（月 2 回)、加齢黄斑変性症（両眼交互に注射：年間 8 回）治療のための通院は欠かせない。各病院ではマスク着用、検温、消毒、待合室の椅子も対面を避ける距離をとるなど対策は怠りなかった。

私にとり新型コロナで特に影響を感じるのは眼である。活字を見る（眼を使う）時間が増えたのだが左眼（文字が欠けて見える）が使えないので往生している。新聞、雑誌などを読むときに画数の多い漢字などは 2 倍の老眼鏡では判読出来ず、プラス虫眼鏡を使っている始末（実は、この原稿も 10.5 ポイントではなく 12 ポイントで入力している)。ただでさえ不自由な眼なのに新型コロナで不自由さが増してしまった。

一方、時間が増えたおかげで、今まで手を付けなかったことに着手出来たこともあった。屋内外の断捨離である。まず屋外の物置の整理。20 年以上も手付かずのものが続々出てきて唖然とするが、今回が絶好のチャンス。ボチボチやったので 2 週間ほどかかったが結果オーライ。屋内ものではまずタンス、押し入れに収納されている衣類。これは娘主導で 2 日間で終える。女房はまだ着れる、使えると言うが娘の言動には敵わない。50 束ほどにまとめられ次週のごみ回収日を待つ。次に本類の整理。3 日かかって整理をするが読まないのに捨てきれない本が残ってしまう・・・・。そして自分で録音したカセットテープ（400 本以上）や洋画、山映像の VHS（150 巻以上）など想い出の多いものを涙を呑んで束ねる。ただしカセットテープは音質の良いジャズものは捨て難く、後記するウォーキングの際活用している。断捨離の最後、一番捨て難いのは写真類である。山の写真が多いのだが、1 枚、1 枚当時の思い出が重

次ページへつづく

なり結果として未だにダンボールに収まっている。もう一つ自粛中に考えなければならないのが「どうやって体力維持をするか」であった。ＴＶ等では屋内で出来る運動を紹介していたが、私は「屋外を歩くこと」が最適と考え、3 密を避けたルートを考えてみた。午後、家を起点に 5～6 ㎞、時間にして 1 時間半～2 時間。

考えたのは①境川右岸、左岸コース②片瀬山コース③江ノ電沿いコース④蓮沼・桜が岡コース⑤鵠沼西海岸（波打ち際）コース⑥鵠沼東海岸（龍口寺・腰越）コース。

3 月～5 月、人込みを避け各コースを交互に歩き所期の目標は達せられたと思う。特に人の少ない鵠沼海岸の波打ち際から見る夕陽は格別であった。かたや、5 月以降国道 134 号線（中部駐車場付近）陸橋にかかった「～今は、神奈川に来ないで～」という横断幕を見たときには切ない思いに駆られた。もちろん車の往来も少なかった。

あと 2 か月で 2021 年を迎える。国内では未だ毎日数百人、欧米では 2 次感染が広がる昨今。何時になったら治まるのだろうか・・・。

2020 年 11 月 3 日記

新型コロナウイルスで「じしゅく」

森 正孝

春先からの感染拡大に伴い、我がクラブを始め多くの社会経済活動が自粛・延期・中止せざるを得なくなりました。ちょうど気候が良くなる時季でもあり、私はウォーキングの回数を増やしたり、1 回の時間を延ばしたり、家の中を少し片付けたりして、過ごしました。5 月には親の年忌法要を予定していましたが延期せざるを得なくなりました。親の法要もさることながら、帰郷して幼なじみとの懇親を楽しみにしていたので残念でした。床屋へ行くのを躊躇したので髪は伸びましたが、気分的にはちぢこまった「自縮」状態で過ごしていました。

しかし、我がクラブの O 氏がオンライン飲み会「縄のれん」を開店し、また屋外活動である松が岡公園愛護会が活動を再開し（活動後の反省会は自粛！）、海中で息を止めていることが限界に近くなっていた肺呼吸生物として海上に顔を出して息を吸い、一息出来ました。

緊急事態宣言解除後は日が経つにつれて状況を自分の好都合に理解し、徐々に活動の範囲や頻度を復していき、気が緩みました。そんな中、9 月末に私のスマホの新型コロナウイルス接触確認アプリに「陽性者との接触確認あり」との通知が届きました！そこでＰＣＲ検査を受診しましたが、検査結果が出るまでの間は自宅に立て籠もり、不安な気持ちで一杯でした。晴れて陰性通知が届いた日には、祝杯を上げ「自祝」しました。

この経験から、いつ・どこで見えない敵と遭遇しているかわからないと再認識し、帰宅時の手洗いとうがいは欠かさない日々を送っています。

手洗い時に童謡の「うさぎとかめ」を歌いながら洗うといい、とある女性からアドバイスを頂きました。2 番の「・・・どちらが先にかけつくか」まで歌うと 30 秒ほどとなってしっかり洗えるので、洗面所でいつも歌いながら手洗いしています。今日も♪　もしもし　かめよ　かめさんよ・・・　♪

或るナマケモノの一生

大木 信一

95 歳で亡くなった母は、晩年私に「あなたは手のかからない子供だったわ」と、よく言った。それは、活発だった姉と比べてのことで、「ここで待ってなさいというと、いつまでもそこでじっとしていた」という訳である。今考えると、外の世界に対する興味・好奇心が、私には幼いころから余りなかったのだ。

また、私は眠ることが大好きである。子供の頃は手すりにつかまって、立って眠っていたとも言われた。学校の授業も眠くて仕方なかったし、会社でも重要な会議や講演会などで眠気をそらすのに苦労したことを思い出す。

そんな私は退職後、地元に戻って新たなツレと暮らし始め、主夫生活を送ることになった。夕食の支度がメインの役割で、毎日の料理は大変さもあるが、大いなる楽しみとなった。また、地元に戻ったおかげで、幼馴染みに誘われ、バンド、男声合唱、農園部会、くげぬま探求クラブ、ジョギングなどに参加するようになった。どれも、自ら求めたものではなかったが、毎日充実した時間を過ごしていた。

そこに降ってわいた新型コロナ自粛！

2020 年 3 月以降、活動は農園部会を除けば殆んど無くなった。そこで、午前は散歩と買い物に出かけ、午後は農園部会の経験から家庭菜園を始めた。また、週 1～2 日は 10㎞程度のジョギングを行った。いずれも快適な眠りを得るための活動である。午後 5 時以降は唯一の仕事、即ち夕食の準備が待っている。

苦肉の策の散歩、家庭菜園だったが、丁度私の生活リズムに合った。今では、この自粛生活が快適に思えている。幼いころ自然に表れていた「じっと動かず、眠っている」というのが、案外この年齢と時代にマッチしたのかな？

「今の生活」

伊藤 勲

新型コロナウイルスは飛沫感染のため3密をさけ、マスク着用の生活になっているが、何時感染するかわからないので恐ろしいものです。

探求クラブ、片瀬メンズクラブ、地域の老人会等で公民館、市民の家を利用しており、緊急事態宣言は解除されましたが、以前に比べると大きな制約があります。

更に数十年前から友達と年数回東京駅でおしゃべり会をやっているが現在はできないため、電話で時々話すだけになっており、これも制約です。

従って自宅で過ごすことが以前より非常に多くなっております。

しかしながら自宅にいることが元々あまり気にならないので、コロナ禍で外に出られず大変だと言う皆様は多いが、それほどには感じていません。

自宅では家事の分担、新聞読み、テレビ、パソコン等で過ごし退屈はしません。

更に山歩きをやっていたので歩くことへの抵抗は全くなく、現在も買い物などで片瀬山から藤沢駅まで歩くし、鵠沼公民館へも歩きます。

しかし最近歩くことが遅くなり、バランスも悪くなり、外に出るのがおっくうになってきましたし、認知機能の衰える加齢現象もあります。このことが新型コロナ自粛生活に丁度マッチしました。

今まで書きましたように、自粛生活にあまり抵抗がないのは元々自宅での生活に抵抗がないことと、80 歳半ばになる加齢により出掛けることのおっくうさが重なったことだと思います。

ビフォア・アフター

理想のセカンドライフ

小山 和彦

現役時代は旅行屋で、主に海外を担当していた。世界あちこちの国を見て回れたのはよかったが、毎日の仕事は団体・個人を問わず何十件もの顧客の渡航のための手配・手続である。これを同時進行で間違いなくこなさねばならず、常に時間との戦いで、予約が取れない、ビザが間に合わない、など一つでも滞ればお客様を予定日に出発させられないという事態が生ずるので非常にストレスのたまる日々であった。もちろん失敗もあり、お客様に土下座も何回か・・・。

定年になったら、ストレスの溜まるようなことからはスパっと離れて自分のしたいことをしてのんびり楽しく過ごすのだと決めていた。50 代半ばのころ、妻に「定年後はどうする？」と聞かれた。“のんびり”はいいが地元での付き合いがある訳でもなく、一人ぶらぶらでは早死にしそうだし、と残りの人生をどう楽しく過ごそうかと居場所をあれこれ探し始めた。

最初はソフトランディングを目指して、辻堂公民館での月1回の男だけの料理サークルに入った。2010 年春、64 歳で完全に会社人間を卒業した。時間はたっぷり。翌 11 年春の大震災直後、たまたま公民館前で何やら少し先輩らしき人たちが震災救援物資の受付をしているのを見かけた（これが探求クラブの面々だったというのは入会してからわかったことだ)。趣味だけでなく、こういった地域に貢献できる活動もしてみたい。そんなところはないかとネットで探して､3 つほど候補を見つけた。その一つが探求クラブである。ホームページを見て理想のサークルだと入会を決心、たまたま料理サークルで知り合った野村さんに相談したところ、丁度メンバー募集の講座を企画中とのことで 2011 年 12 月の「シニア世代のみなさんの講座」を受けて入会した。

翌年がクラブ創立20周年ということでお役に立てればと記念行事委員にさせてもらった。現役時代に得たノウハウに助けられて多少はお役に立てたのではと思っている。2012 年からはホームページ管理人を引き受けて、クラブの全活動を網羅する情報掲載を担当させてもらっている。皆さんより若干早く全部会の活動がわかるという役得もあって楽しみながら作業をしている。

くげぬま探求クラブはつくづく大変ユニークなサークルだと思う。ワンストップが実現されていて、およそしてみたいと思う活動があれこれ用意されている。活動のためにいくつものサークルに所属する必要がない。さらにはもっと別の事がしたいと思えば仲間を募って新しい部会を作る事もできる。厳しい議論もするが活動になれば和気あいあい、終わっての反省会がまた楽しい。

今、日々の活動に加えて何よりも楽しいと思っているのは、“探求”の名にふさわしく、探求心・好奇心にあふれるメンバー諸氏から50通りもの素晴らしい人生のエピソードを聴くことができることである。

私にとっては理想のセカンドライフを送らせてもらっている場所だ。

くげぬま探求クラブ 万歳！！

地域活動部会紹介

「ヤングハーツ」

野村 時男

ヤングハーツは平成 12 年(2000 年)に発足、今年で丁度 20 年になりました。部会名は「年は取っても心はいつまでも若くありたい」という思いからの命名です。

現在、メンバーは楽器チーム 16 名、ボーカルチーム19名。ハーモニカ数本からスタートした楽器部は、ウクレレ、マンドリン、フルート、オカリナ、キーボード、エレキベースと、今は多種多彩な楽器編成になりました。ゲストには女性の参加もあり和やかな楽しい部会です。

月々の活動は、第1水曜日が公民館での練習日。次月の歌８曲をさらっと練習してから、当月の曲をみっちり練習します。現在の定期訪問施設は鵠生園、清心会藤沢病院の 2 か所で、懐かしい歌や流行歌を皆さんと一緒に歌って楽しんでもらっています。会場では楽器部がミキサー・スピーカーの設置、音出しの準備のかたわら、ボーカル部は会場の皆さんに歌詞カードを配りスタンバイします。さらにMCによる曲紹介で歌が進む間、歌のリード役の他に歌詞カードめくりの手伝いなど会場を盛り上げる大切な役割を担当してくれています。

「多い時で 40～50 名になる会場の皆さんを私達スタッフだけではお世話しきれません。お手伝いいただくヤングハーツの皆さんに感謝しています。」と施設の方が言ってくれます。控室で帰り支度をしていると、「本日も素晴らしい演奏をありがとうございました。」とのメモが届くこともあります。いつも「ほんわかした気持ち」で施設を後にします。

活動は定期訪問だけではなく鵠洋児童館のクリスマス会、ボランティアセンター「ささえ」、鵠沼地区敬老会、鵠沼公民館 春のコンサートなどへの出演もしています。現在はコロナウイルスのために活動はお休み中ですが一日も早く会場の皆さんとご一緒に歌える日が来るよう祈っています。

親睦研鑽部会紹介

「ヤングブラザーズ」

池田 修

最近は大学の合唱団（グリークラブなど）の数が減り、巷（ちまた）の合唱団は増加傾向とか。これがどういうことかは分からないが、くげぬま探求クラブの誇る？男声（男性とは云わない）合唱団「ヤングブラザーズ」はどうか。八年前には、ゲストを入れて一時 30 人になんなんとした。みんなそれなりに若かった。いま喜寿の筆者も当時は古希直前で団員の平均年齢そのものだったが、その後そのまま持ち上がって現在も平均年齢だ。この間メンバーはかなり入れ替わって、最近は 20 人余に落ち着いている。ちなみに探求クラブの平均年齢も同じくらいだと思う。

公民館まつりのステージ冒頭でＭＣが「こんにちは、ヤングブラザーズです」と名乗ると、客席から失笑が起こる。壇上のわれらは苦笑で応えるしかない。ヤングは若年の意だから、壇上のメンバーを見て、客席が正直に反応するとしか云いようがない。ただし合唱を披露すると毎回、わりに好評（お世辞も相当あるが）で、団員はその気になって次の公演に備えて稽古に励む。

昨年は３月から連続８か月、稽古（練習）をいちどもしなかった。怠けたわけではなく新型コロナのせい。やっと 10 月から公民館の部屋利用が規制緩和となり、再開の運びとなった。

音楽の三要素、リズム（律動）メロディー（旋律）ハーモニー（共鳴）のうち、合唱はハーモニーが命。声の高さを複数にして膨らみを出す手法で、「ハモる」なんて云う。団員の中にはカラオケでブイブイ云わせる者もいるが、みんなとハモれる合唱の快感に魅せられて毎回、稽古には参加する。

外部から指揮者と伴奏のピアニストを迎えて指導を受けるのでコストは掛かるが、合唱の質の向上には欠かせない。みんなの意欲は今も衰えていない。

【イベント報告】

第 19 回ボウリング大会

佐々木 黎治

第 19 回ボウリング大会は 10 月 14 日、江の島ボウルに参加者９人(うちゲスト２人)で開催された。

コロナ騒ぎで室内の部会を中心に、探求クラブの活動のほとんどが休会の中、義理堅いというか９人の好き者たち？がマスクに身を固め時間前に集合。参加者９人とはいえそのうち６人は優勝経験者、当然今回も・・逸る気持ちは年齢とは無関係らしい。

入り口で体温を測られ手を消毒し、マスク姿も凛々しく３人ずつ３組に分かれて、前回優勝の福田さん（ゲスト）の始球式でスタート。何しろ久しぶりに体を動かす面々、思うような動きができずに大苦戦。

次ページへつづく

そんな中で日ごろから体を動かさないことに慣れきっていることが効いたのか、なんと筆者が、大量のハンデがあるとはいえ、本人もびっくりの優勝。当然他のメンバーも唖然茫然ただただ驚くばかり。イヤー長生きはするもんだ・・・屈辱の6年間をひたすら耐え忍んでの感激。ビールがうまい。

ゲーム後の反省会？も3人ずつセパレートされたテーブルでの軽食と、コロナ対策バッチリの設営で楽しい1日を送ることができた。

個人優勝＝佐々木黎治（355）　2 位＝池田雄一（334 点）　3 位＝森正孝（330 点）

チーム優勝＝池田雅一・池田雄一・佐々木黎治（930 点）

何はともあれ皆で集うことは楽しい、新加入のみなさん、次回の 2 月 10 日にはぜひ参加を、手に余る？ハンデと多額の賞品、勝利の美酒がきっとあなたを待っています。

第 46 回ゴルフコンペ

玉田 英二

11 月 9 日(月)、秋空の下で第 46 回ゴルフコンペが鎌倉パブリックゴルフで参加者 11 名により HDCP 戦で行われました。コロナ禍でのコンペ、朝のチェックイン時には皆マスクを着用し手先の消毒をしている。プレー時と昼食時にはマスクを外す、レストラン内のテーブルには対面者との間をクリアガード壁が設けられていました。

今回のコースの特徴をあげれば、距離は比較的短い（パー70）が、その分グリーンが小さく砲台形が多用されているため、パーオン率が悪いと思います。ショートアイアンの善し悪しによりスコアに大きく影響を与えます。また、打ち下ろしのコースでもグリーンは砲台形もあり、池越え、谷越えもあり、バンカーも多用されており複数回打つことも覚悟しなければなりません。このコースは、距離が短いからといってけっして侮れないし、戦略性が必要でありミスショットが許されないコースと感じました。

今回幹事をされた岸さんと長谷川さんは、この時期の幹事大変でしたが連絡等適切なる運びで、「見習うべき幹事さん」でした。次回幹事は、山田さんと玉田です。春 5 月頃を予定しています。

『今回のコンペ成績は次のとおり』

優勝：玉田英二　　準優勝：米田義昭　　3 位：田中 力

「玉田のつぶやき」

◇ティーショットは 3 組目 4 番目、緊張感なしでスタートできラッキー！◇珍しく今回は一度もバンカーに捕まらなかった、ツキがある！◇OUT はバーディ、パー、ボギーでスコア 39。IN はダボを 4 回打ってスコア 44！のトータル 83 で回る上出来。

◇これだから止められないね！ ニタリ！

鵠洋児童館 作って遊ぼう

塩川 昌男

鵠洋児童館で開催される「わんぱくまつり」には毎年子どもと遊ぶ会が参加し焼き芋販売を行っていたが、今年は新型コロナの影響でだいぶ変わった形態で行われた。大幅に規模を縮小し、「作って遊ぼう」として開催され、出し物としてはわが部会からは「変わり絵」と「CD コマ」、児童館の職員が「シャボン玉」ほかを行うことになった。児童館では参加する子供たちは 45 人を上限とし、3 密をさけるため 15 人ずつの 3 グループに分けて時間をずらして受け入れるという計画を立てた。

当日は職員 6 名、探求クラブ 5 名、実際に応募した子供の参加者はわずか 8 名という閑散とした会となった。前回には 350 人ほど参加したわんぱくまつりの賑わいとは比較にならず、あらためてコロナの影響力を実感した。それでも参加した子供たちとはゆっくり時間がとれ、おもちゃの手作りを大いに楽しんでいた。

～例会・各部会活動報告～

９月　September

○臨時総会 5 日 新型コロナ感染対策の上、公民館ホールで開催 出席者 41 名(成立要件 35 名以上) 決戦投票の結果「7 月からの 3 ヶ月分は徴収せず、その後は様子を見てさらに延長(月例会で判断)」と決定
○例会 臨時総会に引き続き開催 出席者 41 名 在籍者 53 名(休会 1 名)
○行事 なし
○世話人・委員会 ①世話人会 2 日 ②くぐひ制作部 9 日 公民館で開催 9 名・くぐひ 103 号推敲 ③メディア委員会･ＨＰ制作部 休会。
○鵠沼松が岡公園愛護会 6 日 15 名 20 日 12 名　清掃等
○藤が谷公園愛護会 13 日 12(1)名 清掃等
○おもちゃの病院 預かりのみ 13/27 日 10(2)/11(1)名 来院 8/10 名 新患 7/15 件 退院･引取 0/4 件 当日完治 0/0 件
○農園部会 9/16 日 6/6 名 苗植え等
○デジタル情報部会 28 日 8 名 ﾌﾞﾙｰﾄｩｰｽ
○俳句の部会「似歌会」 通信句会を試行開催

以下の部会は新型コロナ感染対策等のため休会
○ヤングハーツ　○子どもと遊ぶ会
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム　○災害研究部会
○極楽部会　○サロン会　○健康部会
○探訪部会　○カラオケ部会　○談話室
○スケッチ部会　○ヤングブラザーズ
○近代史を語る会　○企業研究部会
○なつかしの名盤愛好会　○おひる探Ｑ会

１０月　October

○例会 3 日 新型コロナ感染対策の上、公民館ホールで開催　出席者 39 名 在籍者 53 名(休会 1 名)　10 月度会費は徴収せず(賛成多数)
○行事 ①ボウリング大会 14 日 9(2)名 江ノ島ボウル
○世話人・委員会 ①世話人会 9 月 30 日 ②くぐひ制作部 14 日 9 名 104 号第 1 回編集会議 ③メディア委員会･ＨＰ制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護会 4 日 17 名 18 日 11 名 清掃
○藤が谷公園愛護会 11 日 12(1)名 清掃
○おもちゃの病院 預かりのみ 11/25 日 13(2)/12(2)名 来院 16/14 名 新患 7/12 件 退院･引取 13/12 件 当日完治 1/1
○健康部会 天候不良で中止
○農園部会 4 日 6 名　14 日 4 名
○デジタル情報部会 26 日 12 名 CPU 等
○ヤングブラザーズ 24 日 18(8)名 音楽談義等
○俳句の部会「似歌会」 通信句会で実施

以下の部会は新型コロナ感染対策等のため休会
○ヤングハーツ　○子どもと遊ぶ会
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム　○災害研究部会
○極楽部会　○サロン会　○探訪部会
○カラオケ部会　○談話室　○スケッチ部会
○ヤングブラザーズ　○近代史を語る会
○企業研究部会　○なつかしの名盤愛好会
○おひる探Ｑ会

１１月　November

○例会 7 日 新型コロナ感染対策の上、公民館ホールで開催　出席者 42 名 在籍者 53 名(休会 1 名) ＊忘年会は中止 ＊11 月度会費は徴収せず(賛成多数)　・サンタの出前要請なし
○行事 ①ゴルフコンペ 9 日 11(2)名 鎌倉パブリック ②鵠洋児童館「作って遊ぼう」8 日 わんぱくまつりの代替 5 名 児童 8 名 職員 6 名
○世話人・委員会 ①世話人会 4 日 ②くぐひ制作部 11 日 10 名 第 104 号第 2 回編集会議 ③メディア委員会、ＨＰ制作部 休会
○鵠沼松が岡公園愛護会 8 日 13 名 清掃･球根植え 22 日 15 名 清掃等
○藤が谷公園愛護会 8 日 10(1)名 花植え準備 24 日 12(1)名 花壇の花苗植え
○ヤングハーツ 4 日 17(10)名 練習のみ再開
○おもちゃの病院 8/22 日 10(1)/12(2)名 来院 18/20 名 新患 10/31 件 退院引き取り 12/10 件 当日完治 1/5 件
○子どもと遊ぶ会 8 日 行事に記載
○鵠っ子囲碁・将棋ルーム 15 日 7(1)名 12 月再開の準備作業
○健康部会 27 日 6 名 天園ハイキング
○農園部会 8 日 8 名 22 日 7 名収穫や植え付け
○スケッチ部会 19 日 3(1)名 公民館で静物画
○デジタル情報部会 23 日 12 名 グーグルマップ、YouTube 等
○ヤングブラザーズ 14 日 18 名(6、先生 2) 28 日 17 名(6、先生 2) 新ピアノ伴奏者で練習再開
○俳句の部会「似歌会」 通信句会 8 名 兼題「葱」

以下の部会は新型コロナ感染対策等のため休会
○災害研究部会　○極楽部会　○サロン会
○探訪部会　○カラオケ部会　○談話室
○近代史を語る会　○企業研究部会
○なつかしの名盤愛好会　○おひる探Ｑ会

( )内はゲスト人数で内数

「くげぬま探求クラブ」はあなたの入会をお待ちしています。
「会社人間から社会人間へ」を目指す方々は「発行人の奥村」までご連絡下さい。
ホームページアドレス　http://kugenumatankyuclub.web.fc2.com/
「くげぬま探求」または「鵠沼探求」で検索してください

湘南かわら版

カルピスは日本人が発明した

磯川 道夫

イギリス人でアラン･ブースという作家がいた。この人は無類の旅好きで、1970年来日して以来、津軽、四国、九州など各地を歩き回り、素朴な日本の田舎とそこに住む人々をこよなく愛し、日本の山道をあちこち訪ね歩いている。日本の伝統芸能について、ウイットに富む語り口と鋭い観察眼を駆使して、多くの著書を残している。1993年3月、日本の永住権を取得したが、翌1994年1月、46歳で、癌のため死去した。彼の書いた「西郷隆盛の道」という本がある。ブースさんは西郷隆盛が敗走した宮崎県の山道を辿りながら、出会う地元の人々の親切をユーモラスに描き出している。

その本のページをめくるうち、「カルピスは日本人が発明した･･･」云々というくだりがでてくる。西郷隆盛とカルピスは何の関連もないのだが、ブース氏はその日も、西郷さんの敗走した山道をたどった末、やっと見つけた旅館にたどり着いて、ビールを注文すると、お女将さんはカルピスをサービスしてくれた。そこで彼はふと思い出す。

「昔、茶目っけのあるやつが、日本人が発明したのは扇子ぐらいのもんだ、といったが、彼らはカルピスも発明しているのだ。カルピスというのはミルクと甘味料と人工着色料と乳酸菌でできたソフトドリンクである。アメリカではカルピコとして知られているが、それはなぜかというに、電通が本来の商品名をもって彼の地で試験販売したところ『カルピス』の発音がカウピス(＝ cowpiss 乳牛の小便)に似ているというので、やんやの歓声で迎えられたからである。電通が中堅クラスの顧客主任に英会話を習わせるようになったのはこの頃のことだ」(「西郷隆盛の道」柴田京子訳　新潮社刊)

このエピソードは戦前のことだが、なんと電通では社員の英会話習得に精を出していたというのだ。話が面白過ぎるので、著者の勘違いか、誰かがのちに脚色した部分があるのではないかと疑う気持ちになった。そこで、電通の広報室に直接聞いてみた。

「電通の社史にはそういうことは出ていません。そこで古いことを知っている者に聞いてみましたところ、『当時、カルピスを扱っていたのは、太平洋貿易という小さな会社で、細々と仕事をしていました。確かにカルピスをアメリカに持ち込んでいますが、結局売れませんでした。カルピコになったいきさつはそのようなことだと聞いています。しかし、電通がカルピスとお付き合いしたのは、戦後、アメリカの少年グループのオズモンズを使って、CMを作ったことがあるだけです。したがってこのために、社員の英語教育を始めたということも聞いておりません』ということです」との答を頂いた。

ということは米国ではカルピスをカルピコと名を変えて販売したということであり、cowpissのことも本当だったのだろうか。いまはもう分からないままである。

私自身も、子供のころ大好きな飲み物であった。カルピスのポスターを懐かしく思い出した。何十年も前のことなので、細部まで覚えていないが、真ん中にカルピスの入った細長い朝顔型のグラスがあり、黒いシルクハットにタキシード姿、丸顔で目のくりっとした黒人少年がストローで飲んでいるイラストだった。「初恋の味カルピス」「美味滋養」のキャッチフレーズが大きく書き込まれていた。もちろん初恋の味など知る由もない頃だったし、美味滋養の文字も読めなかった。

近頃も時々カルピスを飲むが、夏の午後に飲むカルピスには、焼酎が少し入っている。「美味滋養」は今も変わりない。

編集後記　昨年は新型コロナ禍で明け暮れし、わがクラブの活動も大きな制約を受けたが幸いにも「くぐひ」は予定通り発行でき、新年を迎えることができた。巻頭には世話人代表の奥村さんに執筆依頼したが、ご家族のご不幸や本人の眼科治療などのため、副代表の池田修さんに登場願い、昨年を振り返るとともに見通せない本年を占っていただいた。特集記事として「新型コロナ自粛の過ごし方」を森正孝、伊藤勲、大木信一、奥村誠、谷村彪の各氏から投稿いただいた。開催イベント結果としては佐々木黎治さんが「ボウリング大会」、玉田さんが「ゴルフコンペ」、塩川が「鵠洋児童館の行事」について報告。本号の部会紹介は「ヤングハーツ」と「ヤングブラザーズ」が登場、それぞれ野村さんと池田修さんが執筆。ビフォア・アフターのコーナーには小山さんが投稿、当クラブで生き生きと活躍するさまを紹介。久々の湘南かわら版のコーナーには磯川さんが投稿し、懐かしい「カルピス」のエピソードを披露した。イベントが低調の中、会員各位の投稿を期待します。　　(塩爺)

会報　くぐひ　第104号
2021年1月1日
発行 くげぬま探求クラブ
発行人 奥村 誠
編集長 塩川 昌男